

高みを目指して





都城西高校で日々練習を重ねる

1月に宮崎市で開催された全九州高校新人大会で、都城西高校2年の中石皓大さんが3位に輝き、同校レスリング部初の全国高校選抜大会への出場を決めました。「昨年の同大会では選抜大会への出場を逃したが、今回は出場が決まり本当にうれしかった」と満足げに話します。

4歳から父の影響でレスリングを始めた中石さん。父の中石義洋さんは、大学生のころ全日本学生選手権で2連覇を達成するなどの経歴の持ち主で、現在は都城レスリングクラ

人の風景

smiling faces of miyakonojo

ブで指導しています。

同クラブで父の指導を受けながら技術を磨き、小学校低学年までは勝負経験ばかりが続いたという中石さん。レスリングの楽しさに魅せられていきました。しかし、小学3年から敗戦が続き、一時はレスリングをやめたいと思うほど悩みました。それでも地道に練習を重ねたことが実を結び、中学2年で出場した大会で強い相手に勝つことができ、再び楽しいと思えるようになりました。

現在は、同校レスリング部で世界選手権出場経験のある長尾勇氣監督指導の下、日々練習に励んでいます。長尾監督は「最軽量の51キロ級ながら、170センチある長身と長いリーチが武器。技の出し方など頭の良い選手」と太鼓判を押します。小学生のころから一緒に練習してきた同部員の河野偉舜さん（2年）は、中石さんにとって切磋琢磨できる大切なライバル。指導者と仲間に恵まれ、毎日練習に励む中石さんは、都城レスリングクラブで小・中学生の指導を行ったり、技を磨いたりしています。また、2月に参加したモンゴル・日本レスリング交流会では、積極的にモンゴル国の選手と練習を行いました。「世界レベルの選手に指導してもらえ

めつたにない機会に、自分のレベルを高めるため積極的に組みにいった」と向上心を見せます。

「レスリングは運動神経が大して良くななくても、努力次第で結果が出る楽しいスポーツ」と笑顔で話す中石さん。「今後は、国体やインターハイに出場し、レベルの高い選手と戦いたい」と目を輝かせていました。



レスリング
全国高校選抜大会出場

中石 皓大さん

（都城西高等学校2年）